＜口腔の役割＞

まつかぜ

　桐生が岡公園女神像前広場の黄色の飛行機。桐生市に生まれ育った人で知らない人はいないはずです。公園の看板ではノースアメリカン社製 T-6 練習機、愛称「テキサン」、日本名「まつかぜ」、1966 年に航空自衛隊仙台基地より退役した機体を桐生市が引き取ったことが記されています。

桐生が岡公園の「まつかぜ 142 号機」

機首を北北東に向け、公園を見守っているかのようにみえます

　当時、退役した T-6 練習機 55 機は、教育や広報目的に全国の学校や博物館、施設を募集、そして貸与されたそうです。桐生が岡公園の他、近隣では航空自衛隊熊谷基地内、そして所沢航空発祥記念館では屋内展示されています。

所沢航空発祥記念館の「まつかぜ 099 号機」

同館のシンボル的な存在となっています

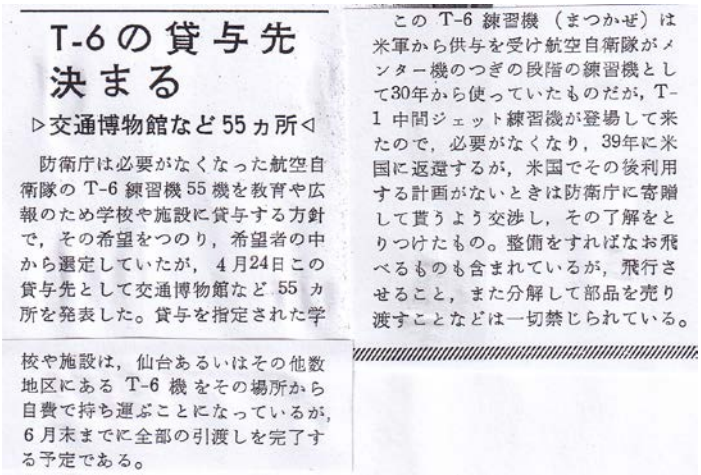
　ご存じの方も多いと思いますが、自衛官の条件として、「多数のう歯（むし歯）または歯の欠損が無いこと」とされていますが、特に航空自衛隊ではむし歯は許されません。

　標高 1345mの赤城山の大沼程度であれば、普通に車でドライブに行ける高度であり、標高 3776mの富士山も登山が可能ですから、飛行機にとっては大した高度ではないと思われがちですが、ドライブや登山と違い、飛行機は急激な気圧変化を受けます。所沢航空発祥記念館の資料では T-6 練習機は実用上昇限度 7375mとあります。5000～6000mの高度ならば 0.5 気圧、地上の半分くらいになるため、もしむし歯でもあれば、上空で激痛に襲われるかも知れません。

むし歯で歯の神経が腐敗した場合には歯の中（歯髄腔）にガスが貯まる事があります。さらに歯の神経の治療（根管治療）では殺菌用のガスを発生する薬や空気を封入したままフタをします。気圧が下がることにより、空気やガスが膨張するため、歯の内部の圧力が高まり、神経や血管が圧迫され、歯痛を生じます。これが「気圧性歯痛」または「航空性歯痛」です。各航空会社もホームページで搭乗前の歯の治療を奨めていますが、実は気圧性歯痛は飛行機に限ったことではありません。梅雨の時期や台風が来ると何となく歯が痛い。そのような症状があれば、かかりつけの歯科医院に相談してみましょう。天候でむし歯が発見されることも決して珍しくはありません。

“テキサス人”、“テキサス生まれ”の意味を持つ「テキサン」。日本に来てからは「まつかぜ」の名前で航空自衛隊では約 1800 名のパイロットを輩出したそうです。

自然災害が多い昨今、自衛隊員が災害地に派遣される場面をよく目にしますが、「まつかぜ」も高性能だったことから救難機として活躍したという記録があります。歯はもちろん、先ずは自身の健康管理をしなければ救難活動さえできないこと知っていた多くのパイロット達。現役時代、20 年にわたり、数百人のパイロットを育成し、輩出した 142 号機。退役後は桐生市が迎えて今年で 55 年。女神像（織姫平和像）とともに桐生が岡公園のシンボルとしていつまでも輝き続けて欲しいと思います。



T-6の貸与先決まる

▷交通博物館など55ヵ所◁

防衛庁は必要がなくなった航空自衛隊の T-6 練習機 55 機を教育や広報のため学校や施設に貸与する方針で，その希望をつのり，希望者の中から選定していたが，4月24日この貸与先として交通博物館など 55 カ所を発表した。貸与を指定された学校や施設は，仙台あるいはその他数地区にある T-6 機をその場所から自費で持ち運ぶことになっているが，6月末までに全部の引渡しを完了する予定である。

この T-6 練習機（まつかぜ）は米軍から供与を受け航空自衛隊がメンター機のつぎの段階の練習機として30年から使っていたものだが，T-1 中間ジェット練習機が登場して来たので，必要がなくなり，39年に米国に返還するが，米国でその後利用する計画がないときは防衛庁に寄贈して貰うよう交渉し，その了解をとりつけたもの。整備をすればなお飛べるものも含まれているが，飛行させること，また分解して部品を売り渡すことなどは一切禁じられている。

航空情報　No.193　1965 年 6 月

当時、桐生が丘公園は全国 55 か所のひとつに選定されました

【歯科口腔外科診療部長　今井　正之】